

事業名・最終達成目標	項目	事業内容	事業主体名	各項目達成目標	2025年度までの実績	R7年度 評価	年次計画					課題	今後の対応案			
							2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度			2029年度		
①保全計画の適切な運用 エリアとジオサイトの保全、管理 達成目標： ・公開可能なモニタリングデータが関係者間で閲覧できる状態 ・保全活動の整理がされ、活動内容が一覧化されている ・巡回や調査をもとに、新しいジオサイトが追加される	A情報共有・支援	A-1モニタリングデータベース化と共有	調査研究部会 教育普及部会	モニタリングデータベースの公開情報・非公開情報の整理を行い、関係者間で共有を図る。また、HPなどで閲覧できるようにする	保全計画・保全対象ジオサイト一覧・ジオサイト全図をホームページに掲載し、保全活動情報の共有をよしてニュースレターを発行した	A	■	■	■	■	■	■	再認定時の講評を踏まえ、猪苗代湖や赤井谷地湿原等を含むジオパークの境界を再検討する必要があるが生じている。	関連事業の整理を計画的に進める。再認定審査後の、新たな課題に対する対応案の作成。		
	B推進体制の構築	B-1保全活動の整理と一本化	調査研究部会 教育普及部会	ジオパーク構成団体や地域内で保全保護活動をしている個人や団体との関わりを整理し、モニタリング等保全活動の一本化を図る	再検討 (S-1アクションプランの検証)	B	■	■	■	■	■	■	保全活動の一本化は必要か再度検討が必要。各団体に力を入れている活動が異なるため、磐梯山ジオパーク内でどのような活動が行われているか「把握する」という形で良いのではないか。	保全活動の一本化の是非を再検討し、各団体の活動把握に重点を置く方針とし、2026年度以降の具体的な把握手法とロードマップの策定を実施する。		
	C持続可能な利用	C-1保全計画に基づいたモニタリングの実施	事務局 調査研究部会 教育普及部会	保全計画に沿ったモニタリングとそれに基づく具体的な保全活動を実施する	保全計画に基づいたモニタリング活動を実施できている	A	■	■	■	■	■	■	■	HPでの概要掲載と事務局での詳細データ保管体制を明記し、問い合わせに対応できる環境を整える。		
		C-2新たなジオサイトの開拓	事務局 調査研究部会 教育普及部会	地域の巡回や調査研究の成果をもとに新たなジオサイトの開拓を行う	R6年度の部会開催時に新たなジオサイトの追加検討を行った (2026年度～2029年度に実施) S-1アクションプランの検証	-			■	■	■	■	■	開拓は必要か再度検討 (メインとなる81のジオサイトも多いという意見があり整理が必要) メインジオサイトの追加という形よりも潜在的な「地域資源」の発掘という形での開拓が良いのではないか	新規サイト開拓の必要性を再検討し、既存サイトの整理や潜在的な「地域資源」の発掘という視点でアプローチする。	
②調査研究の推進 研究成果の活用 達成目標： ・研究助成金が支給できている ・研究成果がデータベース化されている ・気候変動の影響と課題が抽出され、整理されている	D支援制度	D-1研究支援制度の確立を目指す	調査研究部会 事務局	研究成果をどのようなジオパーク活動に活用するのか共有を図るとともに、研究支援制度の確立を図る	未実施 (2026年度から実施)	-			■	■	■	■	研究支援制度について金銭的な対応はできない (部会でも共有) が、現地調査などでの協力や発表の場の提供は可能という話が出ている	金銭的支援に代わる調査協力や発表の場の提供を具体化し、ビジターセンター等と連携した収益・寄付金の基金化ロードマップを作成。		
	E研究成果の場と学術成果の整理	E-1研究機関との連携強化	教育普及部会 広報啓発部会	研究やその成果を協議会として共有し、研究機関との連携強化を図る	この項目は2026年度からの実施であるが、2025年度はJAMSTECとの連携協定を継続し報告会ではジオツアーやエコツアーでの活用についても話があった	-			■	■	■	■		JAMSTECとの連携協定は継続して結ぶこととなった (R9年度まで延長) JAMSTECとの連携協定延長を機に、具体的な連携の可能性について協議を深め、活動への活用策を明確にする。		
		E-2学術成果の体系的な整理	教育普及部会 事務局	磐梯山ジオパークエリアに関して公表された学術成果の体系的な整理を行う	未実施 (2026年度から実施)	-			■	■	■	■	■	海洋運営委員長や竹谷先生と連携した論文検索を進め、2026年度からのデータベース作成開始に向けて着実に準備を整える。		
	F気候変動	F-1気候変動の影響と課題の抽出	調査研究部会 事務局	気候変動が地域に及ぼす影響と課題の抽出を行う	再認定調査時に検原湖の結氷状況の変化と豪雨被害についてまとめ話をした	B	■	■	■	■	■	■	■	磐梯山ジオパークとしてどのように気候変動に対応していくのか具体的な案は示されていない。	気候変動への具体的な対応案の策定が急務であり、一次産業担い手へのヒアリング等、再認定時の講評を活かした取り組みを部会で検討。ジオガイドや会員の学びの機会として「お話を聞く」活動として取り組む事やJAMSTECなどの研究機関との連携も図り、気候変動について学ぶ機会を設けていきたい。	
③教育活動の普及 学校教育と生涯教育の充実 達成目標： ・ジオパーク学習 (SDG sを含む) がパッケージとして流通している ・エリア内の小中学校で一度は給食として磐梯山ジオパークカレーが活用された状態 ・エリア外の教育旅行受入れが20校になっている	G学校教育プログラム関連性強化	G-1ジオパーク学習プログラムの整備 (SDG sを含む)	教育普及部会 広報啓発部会 事務局	教育旅行受入れプログラムとして、ジオパーク学習 (SDG sプログラムを含む) のパッケージ化を図り、エリア外からの教育旅行を誘致する	パッケージ化未実施 学校向けの学習について大筋のプランは出来上がっているが、対外的に公開可能なもののできるまで仕上げられていない。	C	■	■	■	■	■	■	■	収益事業化に向けた組織体制や旅行業登録、法人税、リスク管理等の体制整備が課題。	既存の教育旅行プログラムや復興ツーリズムの事例を参考に検討する。	
	H学校教育連携強化	H-1出前授業プログラムのカタログ化	教育普及部会 事務局	これまで実施してきた出前授業内容のデータベース化を行い、出前授業プログラムのカタログを作成する	未実施	C	■	■	■	■	■	■	■	■	同上	上記と同様
		H-2地元小中学校と継続的なジオパーク学習の実施	教育普及部会 事務局	地元小中学校と継続的なジオパーク学習を実施し、協定の締結を目指す	協定は結ばなかったが、ジオパーク学習については実施できている	A-	■	■	■	■	■	■	■	■	小中学校向けの9年間を見据えたジオ学習ステップアッププログラムを作成し、このプログラムを軸に教育現場との連携を強化。	
		H-3ジオパークカレーを通じた食育	教育普及部会 事務局	磐梯山ジオパークカレーの教育活用を通して、食育プログラムとしての定着を図る	概ね継続して提供できている	B	■	■	■	■	■	■	■	■	前任者の卒隊に伴い、関係が薄れてしまった学校もある	G-1の延長：担当者交代による学校との関係性低下を解消するため、教育プログラムの再提示を通じた関係再構築を図る必要性が有る。
	I教育旅行に関するプログラム開発	I-1当地域で教育旅行を実施している学校への情報発信	広報啓発部会 事務局	当地域で教育旅行を実施している学校への魅力向上プログラムをDM等で発信し、ニーズ調査を行う	未実施	C	■	■	■	■	■	■	■	■	G-1未実施のため商材となる具体的なプログラムが提示できず実施できなかった。	G-1の延長：プログラムの具体化を優先し、完成次第、速やかに営業活動や情報発信に移行できる体制を整える必要性が有る。
I-2当地域向け出前授業の内容を対外向けに磨き上げる		教育普及部会 調査研究部会 事務局	エリア内での出前授業の内容を時間別プログラムなど対外向けにブラッシュアップする	未実施	C		■	■	■	■	■	■	■	同上	G-1の延長：具体的な商材 (プログラム) の早期完成と、それに基づく効果的なPR活動を展開する。	

事業名・最終達成目標	項目	事業内容	事業主体名	各項目達成目標	2025年度までの実績	R7年度 評価	年次計画					課題	今後の対応案		
							2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度			2029年度	
④ツーリズムの活性化 産業振興と観光の高付加価値化 達成目標： ・ガイド養成講座が年3回以上開催されている ・英語対応ガイドが1名以上手配できる	Jジオツーリズム推進	J-1パートナーシップ協定による連携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	地域内外の企業や旅行者などとパートナーシップ協定の締結など、民間企業との連携を強化する	未実施	C							新規で協定の締結や連携はできなかった。	企業・団体へのアプローチ手法をゼロから検討し、他地域の成功事例を参考にしながら、効果的な連携モデルを構築する。	
	K多様なツーリズム	K-1多様なツーリズムの展開	教育普及部会 事務局	ジオツアー等既存商品のカタログ化及び新コンテンツの作成を行う	1月の運営委員会時にインバウンドプログラム造成研修を行った。カタログ化までには至っていない。	B							カタログ化などは行えなかったが、新規コンテンツとしてはジオ×ヨガなど新しい視点からイベントを行うことができた。また、卒業となった磐梯町の田中協力隊がジオパークの事業で調査していたアドベンチャーツーリズム造成（磐梯吾妻修験）について今後も関わりを持ちながら体験の幅を広げていきたい	ジオ×ヨガ等の新規コンテンツやアドベンチャーツーリズムの視点を取り入れ、既存の枠にとられないイベント展開を行う。ジオツーリズムのさらなる強化を目的に、ジオガイドの個人活動意識調査およびアンケートを実施。	J～Mは一連のものとしてどのように進めるのが良いか、他地域の事例も含めてご紹介しながら皆さんとディスカッションしたい。ツアーなどでの活用の道を整える前にガイドだけ増やしていくのは、いずれ問題になる。
	Lインバウンド対応	L-1英語対応の強化（マニュアル整備・翻訳機の導入）	教育普及部会 広報啓発部会 事務局	英語対応の強化、英語ガイドマニュアルの整備、翻訳機の導入を行う	翻訳機等の導入には至っていないが、英語が話せるジオガイドを認定		B							英語が話せるジオガイドを認定（田中真之氏、秋山玄徳氏等）	認定した英語ガイドの活用策を含め、インバウンド対応やツアーでの活用について、具体的なディスカッションを進める。
	Mジオガイド育成	M-1ガイド育成のため、養成講座の実施	教育普及部会 広報啓発部会 事務局	有償ガイドの質の向上を図るため、ガイド養成講座を継続的に実施する	2025年度は14名の新規ジオガイドを認定した		A							今後はスキルアップ研修も充実させていく必要がある	ガイドのスキルアップ研修を充実させ、質の高いツアー提供につなげるとともに、他地域事例の共有を通じたレベルアップを図る。
⑤情報発信の強化 達成目標： ・来訪者属性等のデータ整理ができている ・ターゲットをもとに、販促ツールが作成されたい	N情報収集	N-1域内の来訪者属性調査の実施、認知度・満足度の情報収集	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	域内の来訪者属性調査の実施、手軽な体験イベント等を通じて、磐梯山エリアの認知度や来訪者満足度に関する情報収集を行う	未実施	C							早急に進めなければいけない	令和8年度のアンケート実施に向け、手法や項目の検討を早急に進め、効果的な情報収集計画を策定。各種イベントの出席時にアンケート調査も同時に実施する。	
	O情報発信	O-1ターゲットの明確化・運用基準の策定 O-2HPやパンフレットの更新	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	ターゲットに合わせた販売促進ツールの明確化及びSNS運用基準の策定と情報公開 ホームページや主要パンフレットを適切に更新する	来訪者向け・地元向けの情報発信としてエリア内共通の動画を映写するよう取り組むことがR6年度の部会で話し合われた ホームページの改修とお宝ガイド増刷時の情報更新は定期的実施できている。特に、今回の再認定調査で指摘のあった境界の明記も行った。また、会津地方振興局より学べる磐梯山のHPを引継ぎサイトを管理していくこととなった。	B- A							磐梯町のリオンドールでは3町村に関わる動画を流していた。猪苗代町、北塩原村では、今後協議の上実施につなげたい（道の駅デジタルサイネージの活用等） ジオサイトの整理とお宝ガイドのリニューアル。	民間店舗や道の駅のデジタルサイネージ活用について、3町村での連携体制を協議し、情報発信を強化。 ジオサイトの整理とお宝ガイドのリニューアルを検討。視認性の向上や予算化のタイミングについて、関係者間で共有する。ホームページの整備については、ガイド紹介、体験プログラムの紹介について充実させる。	
⑥住民の理解と参画の促進 地域活性化と防災意識の向上 達成目標： ・エリア内の施設で年1回3箇所以上で、展示が行われている ・防災に関する出前授業やイベントが年1回以上開催されている ・地域イベントに年3回以上参加する	P拠点施設	P-1拠点施設の機能強化、関連施設との連携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	エリア内の観光施設、教育施設などヘジオパーク展示やパンフレットの常設、施設スタッフのジオパーク理解の向上を図り、拠点施設の機能化を図る	猪苗代町の「和みいな」や裏磐梯ビジターセンターでワクワクジオパーク展を開催した	A								一度で終わらず、定期的な開催ができるよう着実な進捗を図る。	
	Q対話と連携による住民との協働	Q-1火山・噴火・防災をテーマとした講座の開催	教育普及部会 広報啓発部会	磐梯山エリアの火山・噴火・防災をテーマとした地域住民向け講座の拡充を図る	猪苗代町社会福祉協議会と防災に関する学校教育について協力した。また、運営委員の佐藤公館長を中心に防災国体や仙台防災未来フォーラムなどに参加した。	A								福島県立博物館との連携を深め、「災害からの復興や防災・減災」をテーマとしたコンテンツ造成と、常設展を活用した啓発活動を推進する必要がある。噴火記念館や博物館から受け継いだ防災実験のノウハウをジオガイドへ集約し、住民の安全に資するガイド活動として展開する。	
		Q-2日本赤十字社、JAMSTEC等との連携強化	調査研究部会 事務局	日本赤十字社、JAMSTECなどとの連携を強化し、既存プログラムの活用と事業の拡充を図る	未実施	C+								JAMSTECとの連携協定継続を活かし、調査研究成果の地域還元や教育活動への反映を具体化する。また、日本赤十字社の窓口が社会福祉協議会であるため、社会福祉協議会を通じた連携も視野に入れていきたい。	
Q-3地域イベントへの参加	事務局	地域のイベントに積極的に参加し、住民との協働するための機運の醸成を図る	○諸橋近代美術館：マルシェの共同開催、および「おしゃべりジオ散歩」による体験型コンテンツの提供。 ○リステル猪苗代：飲食（ジオカレー）や物販（マルシェ）での連携。さらに、リステル新宿との繋がりを活かした広域的なアプローチができた。		A								着実な進捗を図る。		

事業名・最終達成目標	項目	事業内容	事業主体名	各項目達成目標	2025年度までの実績	R7年度 評価	年次計画						課題	今後の対応案
							2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度		
⑦ネットワーク活動の推進と運営体制の強化 持続可能な運営 達成目標： ・JGN事業を当ジオパークエリア内で開催する ・各部会を年1回以上開催し、部会間での内容の共有を行う	R国内GP連携強化	R-1他国内GPとの連携強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	JGN・JGCが主催するイベントや研修会にガイドや事業所などのステークホルダーが参加し、ネットワークの確立を図る	全国大会や周年イベントに参加した	B-							研修会へは参加できなかった。	外部研修会への参加機会を確保。
		R-2JGN・JGCの情報の共有	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	JGN・JGCが有する様々な情報を速やかに取得し、当ジオパーク会員と共有し、有効活用を図る	ジオパーク通信発行するようになった。	B							新規認定のジオパークなどの紹介はできたが、多くのJGN・JGCからの情報は共有できていない。	JGN・JGCからの情報共有体制を整備し、メーリングリスト等の情報を適切に選別・反映させる仕組みづくりを行う。
	S運営体制強化	S-1アクションプランの検証	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	アクションプランの達成度の評価・分析・検証を行い、計画の見直しや改善などのPDCAサイクルを回す	年度内に実施することができなかった	C								バーを引くだけでなく、実施状況の検証に基づき段階的なロードマップと将来構想（中期計画）の策定に取り組みたい。
		S-2部会等の運営体制の強化	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	各部会の構成員と業務内容の整理及び連携強化を図る	年1回、各部会を開催し情報共有や業務内容の確認を行った	A-							部会の開催はできたが、具体的な業務内容の整理まで及ばなかった（R7年度は再認定調査に向けた話し合いがメインとなった）	本来の業務内容の整理と役割分担を明確にする。
		S-3収益化・財政強化の意識共有	教育普及部会 広報啓発部会 調査研究部会 事務局	事業の収益化、財政強化について協議会が目指す姿の共有を図る	未実施	C							G-1同様に収益化するための体制を整えなければいけない事がわかった（旅行業、法人税、リスクマネジメント等）	収益化に向けた法的・組織的課題を整理し、持続可能な運営体制の構築について、関係者間でディスカッションを行う。